



かしま友愛

第33号

2017年6月20日

社会福祉法人
加島友愛会事務局
大阪市淀川区加島1-60-36

☎ 06-6101-6601

第二期レインボープランの推進を

法人理事会・評議員会開催

五月二十日、加島友愛会の二〇一七年度第一回理事会が、理事・監事・施設長・本部事務局などが出席して開催されました。

平田理事長からは「皆さんのご協力のもと、事業は概ね順調に進行している。第二期レインボープランの中で地域貢献にむけた取り組みを盛り込んでいきたい」との挨拶がありました。

続いて酒井専務理事が二〇一六年度事業報告（二面）、西岡理事が決算報告（別紙）をおこない、熱心に討議され採決されました。



六月十日には定時評議員会がおこなわれ、事業報告・決算報告を承認。

また、午後からの第二回理事会で新役員の出について話し合われた後、引き続き平田理事長が代表として選出されました。



コラム

かしまの光

先日、テレビの情報番組で共生型ケアの特集があった▼保育園を併設した老人ホーム。子どもの貧困対策に子ども食堂として施設の一部開放するなど共生型福祉施設が紹介されていた。学生ボランティアを起用し、若い世代が高齢者や子どもと関わり会える場にもなっているという▼施設の利用者も、高齢の方は子どもと関わることで活動的になり、子どもたちもマナーやいたわりの気持ち育てることになる。地域活性の面での利点もある▼しかし、対象利用者個々の課題や支援・介助を複合的に対応するには、職員に高いスキルが求められる。介護、保育、障害では報酬体系も異なり運営的にも課題がある▼それでも少子高齢、人口減少が進むなか、こうした多様な利用者、多様な世代が共に過ごせる環境は必要だ。社会福祉の一つの役割として普及してほしい。



二〇一六年度をふり返って

専務理事 酒井 大介



専務理事 酒井 大介

ご利用いただき、就労支援事業もさらに拡張することができました。

第二期プランに向けても、も加島老人福祉センター及び市営住宅一・二号館跡地について、サービス付き高齢者向け住宅の建設を計画し、設計事務所等々との協議を進めてきました。

既存の高齢・障害福祉事業では、加寿苑デイサービス、希望の家、アンダンテ加島、かしま

障害者センターなどは昨年度に比べて実績を伸ばすことができました。

地域貢献では、二月より加島・三津屋地域から淀川区役所及び十三市民病院へ送迎する「地域住民送迎支援事業」を開始することができ、一日八便を周回させています。

その他にも、国際協力として JICA (国際協力機構) からの委託により、マレーシアの就労移行支援構築のための育成研修も実施しました。

職員数については、二〇一七年四月現在で三百二十五人となっております (非常勤含む)。二〇一六年度は職員の処遇改善の一環として、資格手当の充実を大幅に図りました。

また外国人留学生の受け入れを目指し、EPA制度の研究と先駆的に取り組みをされている他法人にも訪問し、雇用管理に

各事業では、レインボープランの進捗状況では、第一期プランで整備をした有料老人ホーム「リュミエール加島」は平均入居率が九十三%を超え、年間を通じて安定運営を行うことができました。豊中市で整備を進めた就労継続支援A型事業所「ル・プラス」は定員を超える方に



「サービス付き高齢者向け住宅」の建設を計画



JICAの委託で研修を実施

ついて学びました。そのうえで、三月から加島友愛会で働きながら介護福祉士の取得を目指すベトナム人留学生二名の受け入れを行いました。

このように二〇一六年度は総じて安定した事業運営ができ、一部事業では更に成長を見せた一年となりました。

第二期レインボープランは、まだ道半ばですが、地域社会に貢献する事業の立案・運営を着実に進めていきたいと考えております。引き続き、ご支援の程よろしくお願いいたします。

(詳細は加島友愛会HPより二〇一六年度事業報告をご確認下さい。)



加島希望の家

支援課長

まじま ひろただ
真嶋 広匡

昨年から支援課長として勤務しています。希望の家での取り組みの一つとして、朝礼での「一言スピーチ」を紹介します。

毎日朝礼当番が一つの話題について、わかりやすく要約し、皆の前で3分程度の話をする練習です。他の職員の良い支援や良い所探しからスタートし、最近ではプライベートでのうれしかったこと、共有してもらいたいことなど話題はさまざま。職員一人ひとりを知ることができ、朝礼を楽しみに出勤しています。

支援者にとって利用者を知ることは大事であるように、良い人間関係、職場環境を作るにも、仲間を知ることとはとても重要です。どの職員も素晴らしい気づき、発見、観察が見られ、毎回感心させられています。

私個人としてはスピーチのスキル向上と合わせて、自分自身を知る良い機会になっています。自分探し・自己覚知をテーマに任された業務を遂行していきたいです。

これからも地域の方々との交流、連携を深め、希望の家が地域福祉の拠点となるよう努力していきたいと思えます。



リュミエール加島

介護職

むらた みか
村田 美香

リュミエール加島の村田と申します。入職して1年が経ち、現在はレクリエーション委員会と職場環境改善委員会に所属しています。

レクリエーション委員会では、入居者に楽しんでいただけるよう、日常のレク以外にも初詣や節分、お花見等の四季を感じるような催事を委員が考え、職員も楽しみながら一丸となり取り組んでいます。

また、外に出る機会の少ない入居者もいらっしゃるため、外食や買い物、散歩等に行くことで、気分転換や社会との繋がり、季節を感じていただけるようなレクを企画しています。

昨年度実施した回転寿司外食レクは、とても好評でした。

職場環境改善委員会は今年度発足した委員会です。職員の声の聴き、風通しの良い働きやすい職場作りをめざし取り組んでいきたいと思っております。

「入居者、職員ともに笑顔で楽しく過ごせる施設環境作りをめざし取り組んでいる」…これがリュミエール加島のいいところだと感じています。

新しいポジションで

この春から各施設の新しいポジションで活躍するメンバーを紹介します。(かしま障害者センターは8面に)



加寿苑

事務長

にしおか つよし
西岡 剛

事務長の西岡剛です。今年の4月から加寿苑で働いています。10年前に加島友愛会を退職しましたが、再び皆さまのお世話になることとなりました。よろしくお願いいたします。

久しぶりの職場で感じたのは「大きな法人になったな～」といったことです。多くのお年寄りや障がいのある方々に利用していただき、その責任も10年前とは比べものにならないくらい大きくなっています。職員数も事業の拡大によって増えました。私の立場の重要性を実感し、改めて身が引きしめる想いです。

また、福祉制度の変化も激しく、対応するだけでもかなりの業務になっています。それらの内容を十分に理解し、適切に各部署へ働きかけることが重要だと考えています。

実際の仕事では、利用者の方々に直接に支援する機会は少ないかも知れません。「職員の多種多様な力が、様々な場面で発揮される」そんな職場環境を今以上にすることが、私に課せられた使命であると決意しています。

加島友愛会の理念である「全ての人々の人権が尊重される社会をめざす」といったことを皆さまとともに進めて行きます。チーム加寿苑の一員として、全力でがんばります。



アンダンテ加島

生活支援員

なかがわ えりか
中川 恵梨華

アンダンテ加島で実習生・アルバイト職員としてお世話になり、4月から正職員として働かせていただくことになりました。

まだまだ、わからないこともたくさんありますが、先輩職員の方々に丁寧に指導していただきながら、勉強の毎日です。一日でも早く先輩方のように努力していきます。

また、利用者の方によりよい生活を送っていただくために、一人ひとりの事をよく知り、それぞれに合った支援を提供できるように考えていきたいと思えます。

加寿苑

地域ふれあいコンサート

五月・六月は、例年同様外出をしたりボランティアさんに来ていただいたりと、利用者の皆さんにとって刺激のある日々が続きました。

五月二十八日淀川区民センターでおこなわれた「地域ふれあいコンサート」に、特養音楽クラブの皆さん十名が出演。例年よりもたくさんの方が壇上にあがり、おなじみの『加寿苑の歌』など四曲を披露しました。



ボランティアの来訪では、五月十四日に一芸一座の皆さんが来られ、野点とノコギリ演奏を披露していただきました。

ほかにも、大正琴、パステルちぎり絵、音楽療法、書道と、いろいろなボランティアの方に来ていただいています。紙面を借りてお礼を申し上げます。

今年の夏まつりは、八月十九日(土)に予定しています。「利用者・家族の皆さんに楽しんでいただく」と、職員が準備にとりかかっています。

(桑野)

リュミエール加島では、今年も桜の花見を企画しました。

昨年は満開で見ごろだったのですが、今年は咲く時期が遅く、つぼみの状態だったため、少し残念でした。ただ天候には恵まれたので散歩にはちょうどよかったです。

二、三日後にはリュミエール加島に隣接する加島西公園の桜が咲き始めたため、散歩がてら見物に行きました。



この桜はリュミエール加島を建てた五年前に西公園に植えたものです。当時は小さい桜でしたが、今では二階の食堂からも花見見物ができるほど立派な桜に成長しました。これから毎年楽しみます。(江見)

花見を楽しむ



リュミエール加島

加島希望の家

田植えに行ってきました



苗を植える場所に「加島希望の家」と書いた看板を立てて田植え体験スタートです。

裸足で田んぼに入ると利用者から、「ヌルヌルする」「冷たい」「足抜けへんなった」などあちこちで声があがっていました。

五月二十一日(日)、滋賀県JA東びわこ「ふれあい農園・田植えツアー」に参加してきました。恒例行事となり、今年で二十二年目となりました。

観光バスに乗り、いざ出発！道もすいていて二時間程度でJA東びわこに到着。現地ではたくさんの方のJA職員さんや生産者さんに出迎えていただき、バスを降りると、「いらっしやい！今年もよく来たね」と利用者に温かい言葉をかけてくださいました。

開会式を済ませ、田んぼへ移動。田んぼには、すでに一面に水がはられており、風で波立ちながら太陽の光が反射しとても綺麗でした。都会ではなかなか見られない景色で、とてもすがしく感じました。



田植えの後は、食事を取りながら現地の方との交流会です。「カレーライス」や「うどん」「から揚げ」など用意していただき、体を動かしたあとの食事は最高でした。JA職員さん・生産者の皆さん、本当に楽しい一日をありがとうございました。(藤原)

楽しかった三重への一泊旅行



アンダンテ加島では、毎年小グループでの旅行を実施しています。入所者の方の状況や希望に基づいて一泊旅行を2グループ、日帰り旅行を4グループに分け実施しています。

4月には19日から一泊旅行で三重方面に行ってきました。バスに乗ると皆さんのとても楽しそうな様子が見てわかりました。

初日は伊勢志摩真珠館と夫婦岩の観光に行きました。真珠館の内容は少し難しかったですが、真珠加工の行程を見させていただきました。その様子を皆さん興味津々で見られて、満足されていました。

夫婦岩の観光では風が強く少し肌寒い気温でしたが、夫婦岩の前で写真を撮ったりして楽しそうに過ごされていました。

旅館に到着後は、各グループに分かれてお土産を購入したり、部屋で少し休んだり、また海辺の近くなので海岸を散歩したりと、それぞれに時間を過ごされました。

温泉では大浴場や露天風呂にゆっくりつかり、旅の疲れをとりました。宴会場での夕食ではお刺身・天ぷら・すき焼きなど豪華な料理をいただきました。皆さんおいしそうに食べられており、満足されていました。

夕食後はカラオケをし、歌う人や歌わないで聴き入る人に分かれていましたが、皆さん楽しそうに過ごされていました。

2日目は朝から露天風呂に入り、さっぱりされていました。朝食も健康に良さそうな和食料理をいただきました。その後は伊勢神宮からおかげ横丁に行きました。おかげ横丁ではお土産を購入したり、赤福や伊勢うどんなど食べたい物を選んで食べられていました。帰りのバスの中では疲れて寝ている人もいましたが、楽しく充実した旅行でした。

帰ってからも旅行の話を楽しそうに話す利用者を見ていると、スタッフも嬉しくなりました。また楽しい取り組みを計画したいと思います。(中西)

アンダンテ加島

暑さを乗り切れ!

ル・プラス



ル・プラスは今年の5月で丸4年になりました。

「夏は暑くて冬は寒い」という

なかなか厳しい環境ですが、利用者34名・支援スタッフ20名みんな頑張って作業に取り組んでいます。

中でも一番暑い場所がシートローラーの置いてある作業場です。去年は43℃を超えることが何度もありました。この4年、熱中症で倒れた人はいませんが、暑さでしんどくなる人は毎年何人か出てしまいます。

暑さ対策でウォーターサーバーや小型のスポットクーラーの導入はしてきましたが、今年4月に大型の機械が設置されました。シートローラーにつける大型の排気ファンです。現在、半分ぐらいの能力で使用していますが、結構吸ってくれているように感じています。音は大きめですが、夏の暑さが少しでも涼しくなってくるとみんな喜んでくれると思います。

5月には大型のスポットクーラーも設置しました。今年の夏は作業環境がかなり改善されると期待しています。(山下)

新たな気持ちで

むつみ

むつみの生活介護事業が始まってから丸10年が経ちました。

10年の月日の中でいろいろと変わってきたこともあります。利用者により良い支援を提供し、楽しく過ごせるようにしたいというスタッフの思いは変わりません。

今年度から新しい利用者を迎え、スタッフの体制も変更がありました。スタッフの担当が変わっても、むつみ全体のことを考え、利用者のことを考え、より良い支援をしていきます。

就労継続B型事業は始まってから7年が経ちました。昨年度から館内清掃が始まり、土曜日にも作業をする

ようになりました。清掃用のユニフォームもできて、より一層作業に取り組む姿勢が強化されました。利用者の皆さんは毎日頑張って作業に取り組んでいます。作業のスピードや品質も向上して、出来ることも増えてきました。これからも、新しいことにチャレンジしていきます。

むつみは、これからも皆さんが喜んで利用できるようなすてきな施設にしていきたいと思っています。充実した支援の提供を常に考え、歩んでいきたいと思っています。(谷口)



ジグソーパズルに取り組む

“COCOLO” 相談支援センター

昨年からプログラムの一つとして『ウォーリーをさがせ!』のジグソーパズルに取り組んでいます。作る過程も完成した後も楽しめたらいいな、と考えて作り始めてみました。

どうにか効率的に進められないかと皆で頭をひねったり、「絵が細かくて目がチカチカするわ〜」「1000ピース!?意味わからへん…」と愚痴を言い合ったりしながら頑張っています。

四辺のピースを探し、次に枠を組み立て、ところどころブロックを完成させ…と地道に取り組むうちに完成が間近に迫ってきました。頭を寄せ合ってジグソーパズルを作る日々がもうすぐ終わると思うと寂しいような気もしますが、この達成感は得がたいものです。

これからも多くの方が楽しい時間を過ごせるよう工夫していきたいと考えています。(糸川)

OB利用者の声を聞いて

Link

開設から10年が経ち、11年目の春が過ぎようとしています。

昨年度は11名の利用者が就職され、これまで136名の就労を実現することができました。

今年度は体験実習の受け入れや見学会等を通して、Linkの取り組みを知っていただける機会を増やしていきたいと考えています。

その一つとして、5月13日に実践報告とOB利用者による講演会を開催しました。当日は、特別支援学校の在校生やご家族を中心にたくさんの方にお越しいただき、昨年度の就労等の実績や活動報告をした後、働いて3年を迎えるOB利用者から「働いてよかったことや頑張っていること」を話してもらいました。

「職場の人から『いてくれて助かっている。』という一言が嬉しかった」と話すOB利用者の姿に、参加した方からは「とても参考になった」「支援を受けながら働いてみたい」という声を聞くことができ、有意義な機会を持つことができました。



(玉城)

今年もやります、避難訓練

地域生活支援部



地域生活支援部では今年度もいくつかの行事を予定していますが、その一つに避難訓練があります。

将来的に発生の可能性が示唆されている南海トラフ地震もそうですが、いつ何時災害に見舞われるかわからない昨今、いろいろな想定のもと訓練を実施する必要があります。

今のところ訓練は、火災想定のもと消火器を使った消火訓練を中心に行っており、入居者の方々も訓練には積極的に取り組まれ、防災への意識は高まっていると思います。

今後の展開としては、地震の後に来る津波や、台風時の土砂災害など、地域の建物構造も考慮した避難ルートの確保や、食料・衛生品の備蓄など多岐にわたる項目に目を向け対策を練ることが重要です。いざ避難をするためには、常日頃から地域社会との連携を意識し、協力体制を築いていくことができるようにしていきたいと考えています。

(蓬田)

かしま
障害者センター

❖ 後援会の活動にご協力ください ❖

後援会にご加入いただき、ありがとうございます。紙面をお借りしてあつく御礼申し上げます。会費の2016年度の納入状況をお知らせします。昨年度と比較しますと、納付額が34,000円の増となっています。

後援会加入状況	団体	15団体	17口	170,000円	
	個人	200人	238口	715,000円	合計 885,000円
(昨年度比、34,000円の増額会費をいただきました)					

加島友愛会が運営する各施設で使用する行事等記録用ハンディカム、利用者使用マットレス、3人掛けソファ、ポータブルワイヤレスアンプ、広報用タブレット、植樹（桜）などを購入しました。施設利用者及びご家族の方々の利用に供するための支援を、今後行う予定です。

引き続き、加島友愛会后援会をよろしく申し上げます。

加島友愛会では、この春から介護福祉を学ぶベトナム人留学生のアルバイト雇用を始めています。

入管法の改正により、介護福祉士養成校で介護福祉士の資格を取得すれば在留資格として認められ、日本で就労することが可能となりました。

法人では十三にある大阪コミュニケーションワーカー専門学校と連携し、同校で学ぶ留学生の中からベトナム人のアンさんとチャンさんの二人を採用しました。福岡

で日本語を学んでいた二人は今回の法改正で介護福祉を学ぼうと、大阪の同校を受験したそうです。

授業のある日は午後から夕方まで、休日には朝から加寿苑に出勤しており、配膳や下膳、食事介助などを中心に仕事を覚えていきます。

日本語能力も高く、利用者・職員とのコミュニケーションもスムーズです。

二人が介護職として成長できるよう、法人・加寿苑とも支援を続けていきます。



一昨年10月に大阪市淀川区が事業実施していた「福祉バス 夢ちゃん号 (旧赤バス)」が運行廃止となりました。



その後、加島・三津屋の両地域活動協議会より「加島・三津屋の高齢者・障害者への区役所および病院等への交通手段」として、加島友愛会による福祉バスの運営を要望書として頂戴しました。地域住民の皆さまと当法人で多くの議論をおこない、今年2月より「加島・三津屋地域住民送迎事業」を開始しました。

会員総数は160名(5月末時点)で、車両2台で1日8便、加島・三津屋地域から淀川区役所・十三市民病院への送迎を実施しています。事業運営には、地域からボランティアが5名参加していただいています。

まだまだ始まったばかりで改善の余地がありますが、地域住民の皆さまとの地域共助を体現できる事業として進めたいと考えています。(担当事務局 内田)

2月より

加島・三津屋地域住民送迎事業を開始しました



むつみ はなだ 花田 ちか 智香

むつみで生活支援員として勤務して5年目になりますが5月より本務職員となりました。これまで生活介護、就労継続B型と経験させていただきました。

利用者とのコミュニケーションの取り方、障害特性を理解した上での関わり方などまだまだ毎日が勉強の日々です。

至らない部分も多々ありますが、利用者に充実した活動を提供していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

新しいポジションで



ル・プラス きむら 木村 ようすけ 葉介

ル・プラスで勤務し始めて9か月が経ちました。

当初は作業で覚えることも多く、利用者のことなかなかわからず、「しんどいなあ」と思うことが続いていました。それでも少しずつ慣れ始めて、作業や利用者のこともわかるようになってきて、やりがいを感じるようになっていきます。

これからも一生懸命頑張って、より良い支援を利用者にしていききたいと思います。よろしくお願いいたします。



むつみ もとかわ 本川 あつこ 敦子

むつみの生活支援員として勤務して間もなく6年を迎えます。5月より本務職員となり、身の引きしめる思いです。

毎日、目まぐるしく過ぎていきますが、利用者との関わりの中で、できなかったことができるようになる喜びを感じたり、思いを共有し笑ったりと元気をもらっています。

私の大事にしていることは気持ちに寄り添いながらもメリハリのある生活を送ってもらうことです。これからもよりよいサービスを提供できるように努めていきます。